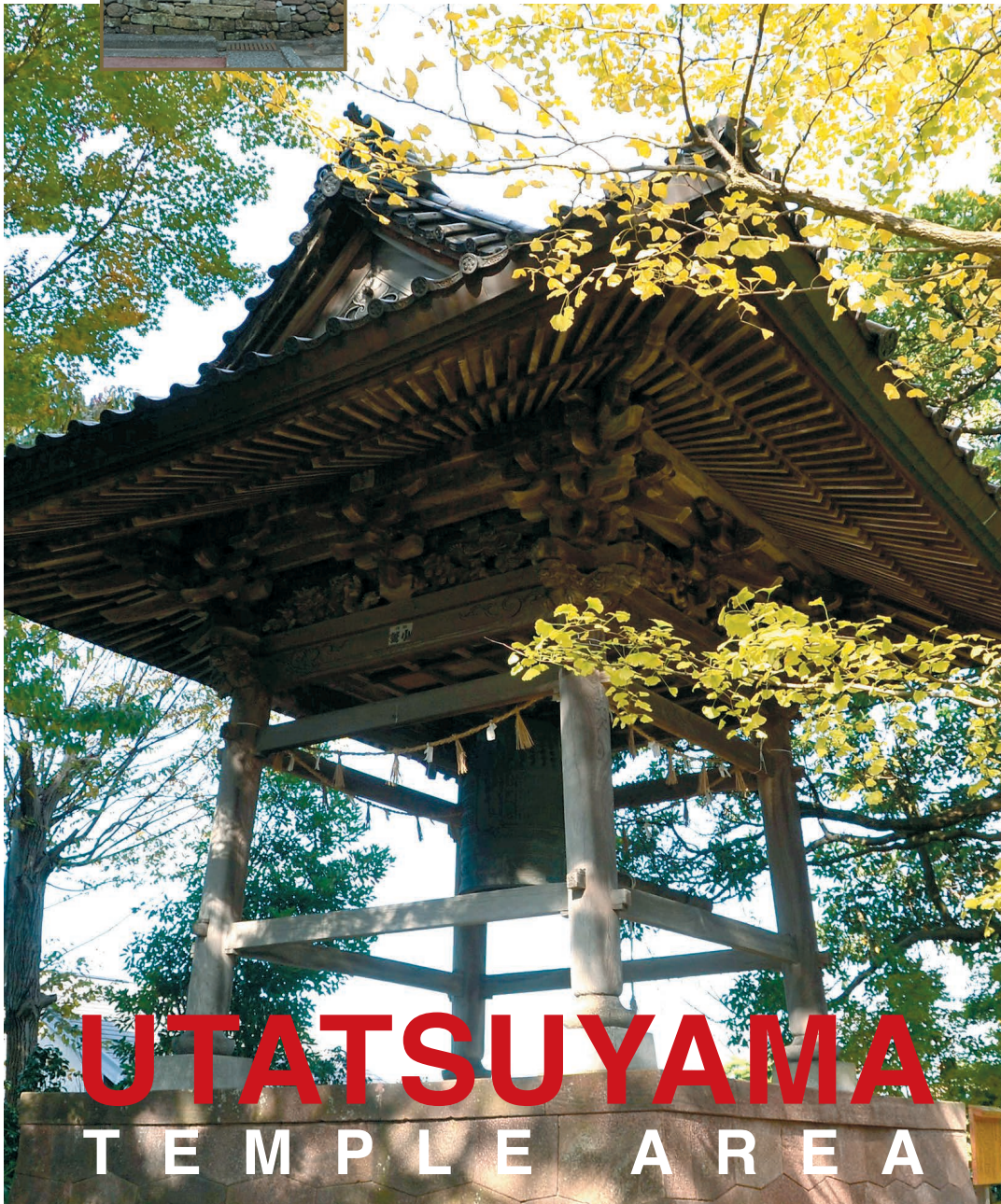


心の道

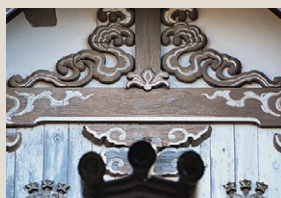
卯辰山山麓寺院群

静寂のなか、迷う楽しみ、出会うよろこび。



UTATSUYAMA

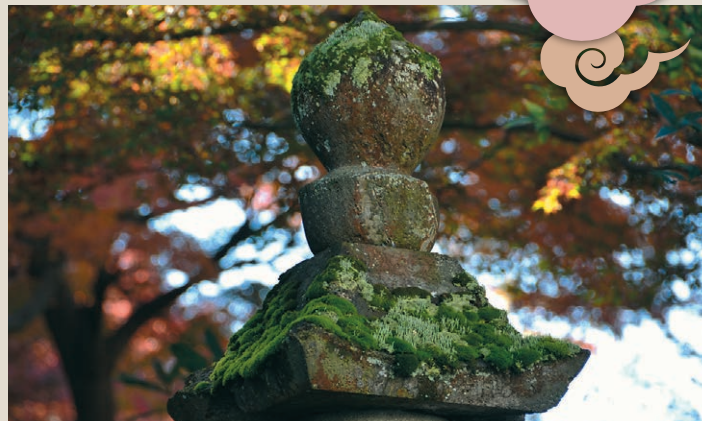
TEMPLE AREA



情緒ただよう町並みをゆっくり流れる浅野川は、女川とも称されている。この界隈は、金沢の文豪・泉鏡花の代表作「義経血」の舞台など見どころが多い。天神橋の程近くには同時期に活躍した徳田秋聲の菩提寺である静明寺もあり、静かな境内には井上靖の筆による秋聲碑が建っている。卯辰山山麓寺院群の散策は、ここを起点として小坂神社までのコースを紹介しよう。

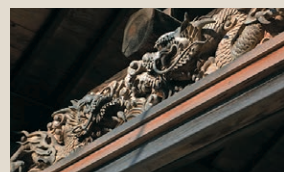
天神橋を渡り了願寺左の小道を進むと、寿経寺の前に出る。安政の飢饉で飢えた民衆が当時入山禁止であった卯辰山から城に向かって「ひもじいわいや」「コメくれー」と叫んだ“泣き一揆”で知られており、門前には犠牲になった主謀者

7人を祀った「七稲地蔵」がある。その先の観音坂を上ると四万六千日法要でも有名な観音院。観音町通りを右折してすぐ、左手には紅柄格子の古い街並み「ひかし茶屋街」が見える。さらに進んで、前田利家を祀った宇多須神社。横道の子来坂とやや急な階段を上れば、金沢市街が一望できる宝泉寺に出る。眼下に浅野川から日本海までが見渡せるお薦めのスポットであり、日本文学研究家であるDonald・キーン氏は「落陽の光景が金沢一の寺」と賞賛している。宇多須神社に戻り坂道をゆっくり上ると、加賀藩ゆかりの慈雲寺、酒商造業の守護神である松尾神社、金沢三大仏の一つ「釈迦如来立像」がある蓮昌寺、長い階段で趣がある西養寺へと続く。この本



堂と鐘楼は市内で最も古く、正面には向唐破風造りの建築様式と樹林が見事に調和し、借景を絡めた新緑や紅葉時にはよりいっそう荘厳な雰囲気醸しだす。その先を進めば鬼子母神の真成寺と、加賀友禅の始祖・宮崎友禅斎の墓碑がある龍国寺が並ぶ。少し戻り小さい広見・卯辰山麓苑から見える階段を上ると山門や本堂の彫刻も見事な本光寺。常福寺、妙正寺、妙国寺、大わらじのかかった仁王門がある全性寺など、その風情は江戸時代にタイムスリップしたようだ。そのまま細い道を進むと、境内裏の庭園が美しい心蓮社や裏千家の祖である仙叟宗室の墓や大樋長左衛門門代々の墓がある月心寺などもあり、光覚寺までのルートは石畳沿いに巡ることができる。ここで一旦国道へ出るが、すぐ山麓の方へと細い坂道を上り善導寺へ。さらに金沢五社の一つである小坂神社の本殿へと進む。途中左手の道路沿いには文化4年(1807)加賀藩が京都の名工・青木木米を招いて再興した九谷焼窯跡がある。

この卯辰山の山麓には国道から少し入った東山・森山、さらには卯辰山公園線の道路沿いなどにも数多くの加賀藩ゆかりの寺院や史跡が点在する。好みの季節に合わせて、ゆっくりと「心の道」を巡ってみてはどうだろう。



春日山焼窯跡

古九谷の廃窯から約1世紀後の文化4年(1807)、加賀藩は京都から陶工の青木木米を招いて春日山(卯辰山)に窯を開き、文政初年(1818)頃まで製陶を続けた。これを機に数々の窯が加賀地方に拡がり、これらの窯の製品は「再興九谷」と呼ばれている。

ここでは誰も、急がない。
坂道で、路地で、境内で、自分と向きあう。

寺院・神社めぐり

心の道



の寺院は拝観不可です。



守長山 法華宗 静明寺

①
L6

拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

徳田秋聲の家の菩提寺としても知られ、秋聲の小説にも登場。昭和57年(1982)に東京で亡くなった秋聲の骨を当寺院に分骨し井上靖氏の筆による徳田秋聲碑が建っている。加賀藩に仕えた学者・安達幸之助など著名人の墓も多い。



榮照山 浄土宗 了願寺

②
J5

拝観 境内のみ 可

妙善上人を偲んで建立した琵琶を弾く「妙音弁財天」の銅像が目をはく。朝見大素の「かくるに草は短し初蛙」の句碑や儒臣・由比勝生の墓、延命地藏なども建っている。うら盆会や大せがき会、彼岸会など期日ごとに厳修している寺である。



光明山 浄土宗 寿経寺

③
I5

拝観 境内のみ 可

領内に大地震があった安政5年(1858)、米価暴騰に苦しんだ庶民が卯辰山から藩主に直訴。暴徒として5人が処刑され、2人が牢死したが、その供養に稲穂を抱いた「七稲地藏尊」が建立されている。心岩和尚の弁財天画像あり。



長谷山 高野山真言宗 観音院

④
I5

拝観 境内・建物内 可

本尊の十一面観音は行基作の十一面観音菩薩の末木を芋掘藤五郎が彫ったものと伝えられる。元和2年(1616)三代利常夫人(徳川二代将軍・徳川秀忠の娘)の発願により医王院が造営された。明治まで庶民の娯楽神事能が催された。



菅原神社

⑤
H4

拝観 境内のみ 可

妓楼が公許された文政3年(1820)、卯辰茶屋町で営業が行われた。その際、観音町西源寺の後に菅原道真を祀り、芸妓たちの鎮守の神とした。後に現在地に移転。太い梁の社殿や歴史を感じさせる狛犬が一对向かい合っている。



宇多須神社

⑥
H5

拝観 境内のみ 可

初代利家公没後、卯辰八幡宮を建立し、利家公の神霊を祀って藩社とした。境内奥手には五代綱紀公の病を平癒したとする「利常公酒湯の井戸」がある。明治11年(1878)毘沙門天を合祀し後宇多須神社と称した。



摩利支天山 高野山真言宗 宝泉寺

⑦
I5

拝観 境内 可 建物内参拝の方 可

本尊の摩利支天は初代利家の守本尊。二代利長の命により、加賀藩重臣であった富田越後守重政が金沢城の鬼門に当たる向山の中腹に堂宇を建立、本尊を安置した。日本文学研究家であるドナルド・キーン氏も当寺からの落陽の光景を絶賛。



雨寶山 法華宗真門流 慈雲寺

⑧
G5

拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

前田家兵法指南役だった富田家と今井彦右衛門の菩提寺。寺蔵の毘沙門天は九代重靖の守本尊で、毎年10月金沢城内に迎えられ拝礼されたといわれる。富田流剣法の富田重政・郷土史家富田景周など富田家一門の石廟や五輪塔の墓がある。



松尾神社

⑨
G6

拝観 境内のみ 可

酒商造業の守護神松尾明神と災害厄除けの祇園大神の二柱が主祭神。信長が安土城内に祭祀した松尾明神を初代利家が譲り受け金沢城内に鎮座。片町の酒造業宮竹屋が東乃祇園に祀ることを五代綱紀に陳情し、酒商造業の守護神として建立。



対蔵山 曹洞宗 宗龍寺

⑩
G7

拝観 境内のみ 可

前田家府中衆家臣岡嶋一吉を、開基として慶長17年(1612)、開創。享保21年(1736)本堂消失。その後復興した。明治38年(1905)、二十八世住職真鍋魯侑(後の総持寺祖院監院)が、金沢三十三観音霊場番外地として花山法皇殿を創設。曹洞宗である。

山門：金沢市指定有形文化財



普善山 蓮昌寺 11 G5
日蓮宗
拝観 境内のみ 可

三代利常の生母・寿福院の帰依所。金沢三大仏の一つで丈六の釈迦如来立像を安置。泉鏡花の絶筆小説『縷紅新草』の舞台。山内には俳人秋之坊の碑、利常の正室・珠姫(天徳院)入興の際、将軍家から派遣された多羅尾家の墓などもある。

本堂・鐘楼：金沢市指定有形文化財



清澄山 西養寺 12 F6
天台宗
拝観 境内 可 建物内 要予約 問い合わせ252-0532

初代利家、二代利長の信望が厚かった当寺は、慶長17年(1612)眺望絶景の当地に移転。加賀藩より15ヶ条の制書を附与され、加越能の天台宗寺院の觸頭となった。俳人宮竹屋小春の墓があり、本堂と鐘楼は金沢市指定文化財である。



遊四方山 本蔵寺 13 F6
日蓮宗
拝観 境内のみ 可

加賀国河北郡車村(金沢市車町)の宝乗寺第十九世・日蓮聖人が京都の妙顕寺より曼荼羅を授かり、同所に建立した。安政5年(1822)、当地に移転した。約150坪の境内には本堂・庫裡・山門などが建っている。



幽玄山 広昌寺 14 F7
曹洞宗
拝観 境内のみ 可

慶安2年(1649)、林道上人が金沢塩屋町に移したが、寛文10年(1670)、加賀藩の命により当地に寺地を賜った。毎月一回「秋葉講」などを行っている。画師・福島元興、明治の女子新聞記者・岡田愛子の墓などがある。



来迎山 誓願寺 15 E6
浄土宗
拝観 境内 可 建物内 要許可

鎌倉から六枚町を経て当地に移る。本尊阿弥陀如来像、江ノ島由縁の弘法大師作の秘仏開運弁財天像、苦行釈迦像、箸供養で歯痛平癒を祈願した観世音菩薩像を祀る。金箔功労者の越野左助、氷室万頭元祖の道願屋彦兵衛などの墓がある。



妙蓮山 真成寺 16 E7
日蓮宗
拝観 境内 可 建物内 参拝の方 可

小松城主であった丹羽長重が尊宗していた鬼子母神を安置。寺所有の産育信仰資料966点は重要有形民俗文化財指定。初代中村歌右衛門の墓や加賀蒔絵の祖・五十嵐道甫の碑、人形供養塔などが建っている。泉鏡花の『鶯花径』の舞台。



祥雲山 龍国寺 17 E7
曹洞宗
拝観 境内 可 建物内説明 要許可

宝円寺八世・虎白大和尚が初代利家の所持札を封じ込めた稲荷神を祀る為に当地で建立。大正9年(1920)には加賀友禅を完成させた宮崎友禅斎の墓碑が発見された。毎年5月17日には加賀友禅の業界関係者が相集い友禅忌の祭典が举行される。



弘法山 三宝寺 18 E7
日蓮宗
拝観 境内のみ 可

小松にあった時は三代利常の生母・寿福院の位碑所にもなっていた。寛文11年(1671)金沢に移転。寺内には秋山神を安置するが痔疾に効験があるといわれ、参拝者も多い。寺宝には不動・愛染(絹本)・妙見尊の画像などがある。

山門：金沢市指定有形文化財



鳳栄山 本光寺 19 E6
法華宗
拝観 境内 可

二代利長に伴い守山、富山、高岡、泉野寺町、小立野など転々と移った。慶安3年(1650)、三代利常から現在地に900坪を給り、堂宇を建立。現在の境内は2,000坪。狂歌師・堀越左源次、北海道開拓・林頭三の墓などがある。



広布山 妙正寺 20 E5
日蓮宗
拝観 境内 可 建物内 要許可

日像上人が石川郡の民家で法談をした際、妙正寺の寺号と曼荼羅を残したのが起こり。兵火にあったが日條上人が再興。十三代斉泰の生母・小野木八百子姫(栄操院)の祈願所であったことから保護を受けた。寺宝には唐金立像釈尊像。



久栄山 常福寺 21 E5
日蓮宗
拝観 境内 可

開山は正保4年(1647)、日條上人が高道町で建立。初め卯辰山にあったが、明治元年(1868)3月5日に焼失したため、長久寺の客殿を移し、明治2年(1869)現在地に再建した。境内は約200坪で、本堂・庫裡・山門などがある。

山門：金沢市指定有形文化財



大谷山 妙泰寺 22 D5
日蓮宗
拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

元和元年(1615)、豊臣秀吉の養女・豪姫と宇喜多秀家の間に生まれた子女(貞姫)の菩提寺となる。宝暦9年(1764)の大火で焼失。藩による復興再建寺院の姿を残す本堂は、卯辰地区唯一の建物。平入切妻造で板葺の石置屋根であった。現在はトタン葺。

山門：金沢市指定有形文化財



妙具山 日蓮宗 全性寺 23 D5
拝観 境内 可 建物内・墓地 要許可

当初は越中放生津(現富山県射水市(旧新湊市))にあったが、二代利長に従い移転。天明6年(1786)現在地に移った。不動明王は十代重教の守本尊で、重教が世嗣となった折に生母実成院が預けたもの。能楽宝生流家元宝生紫雪などの墓がある。

山門：金沢市指定有形文化財



日向山 日蓮宗 妙国寺 24 D6
拝観 境内のみ 可

慶長19年(1614)、開創。日蓮作と伝えられる大黒天像を安置し別名大黒寺とも呼ばれる。境内の大黒堂は十一代日亀の建立。丸い宝珠の形をしている。山門は安永9年(1780)の建立で、市指定文化財。蕉門中興の俳人成田蒼虬の墓がある。



本学山 日蓮宗 蓮覚寺 25 D5
拝観 境内 可 建物内・墓地 要許可

桃山時代の秘仏・七面大明神絵像は、19年に一度の開帳。平常は、寛文元年(1661)在銘で、極彩色の七面大明神の木像を拝む。三代利常の生母「ちよ」の生家・上木家歴代の墓や、辰巳用水を開鑿した板屋兵四郎の墓と伝えられるものがある。



教徳山 日蓮宗 妙圓寺 26 D6
拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

延宝町絵図によると、屋敷はほぼ30間四方であった。境内は420坪で、本堂・庫裡・山門などがある。守護神として開運の神九曜星を祀り、明治時代に繁栄をきわめた。藩校の明倫堂で書を講じた河野四郎右衛門の墓がある。



光巖山 曹洞宗 月心寺 27 D6
拝観 境内 可 建物内 可 一部 要許可

万治元年(1658)油木山蓮昌寺跡の現在地に転居。裏千家の祖・仙叟宗室の墓や歌碑があり、仙叟の命日23日には、毎月、追善茶会を開催。茶室・直心庵は天保の頃の一井庵の古材を使用。仙叟宗室居士、大樋長左衛門代々の墓などがある。



松倉山 日蓮宗 本法寺 28 D5
拝観 境内 可 建物内 要許可

お稲荷さんの寺。創建は天正15年(1587)、常唱院日随上人開山。元は越中新川松倉にて圓通寺と称したが、後に金沢下堀川に移転し松倉山本法寺と改めた。三代利常による内証の祈願を成就。祈祷所を命ぜられ現在の寺領を賜った。

庭園：金沢市指定名勝



金池山 浄土宗 心蓮社 29 C6
拝観 境内 可 庭園は立入禁止

寛永14年(1637)塩屋町から移転。寺宝には国の重要文化財「絹本著色阿弥陀三尊来迎図」。芭蕉十哲の立花北枝、藩政改革の先駆者・寺島蔵人の墓などがある。市の名勝に指定される庭園は「めでた造り」と言われる遠州流庭園。



雄徳山 浄土宗西山禅林寺派 光覚寺 30 C6
拝観 境内・建物内 不可

城内の新丸の内、塩屋町を経て現在地に移転。敷地に山腹を取り入れた静閑な佇まいを今も守っている。本尊阿弥陀如来立像は俊寛僧都の守本尊と伝えられる。本堂の永国山の額は、後西院天皇の11皇女宝鏡宮(本覚院宮)の御筆である。



妙音山 浄土宗西派 善導寺 31 C7
拝観 境内のみ 可

開基は尾張町の薬種商・高岡次郎兵衛(小西宗斉)。宗斉は富来海岸より白髭明神の面を拾い、三代利常に献上したところ褒美に寺地を得た。面は「泡吹の面」として尾山神社に奉納されている。俳人・館屋如柳、陶工・松屋庄平の墓あり。

本殿・石造物群：金沢市指定有形文化財



小坂神社 32 C8
拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

中世期にはたびたび兵火を受けて焼失したが、寛永13年(1636)、三代利常により現地において再興。以来、金沢北郊鎮護の大社として藩主はもとより衆庶から尊信を集めた。金沢五社の一つ。階段の中腹には芭蕉句碑が建つ。



木越山 真宗大谷派 西源寺 33 14
拝観 境内のみ 可

開山は元亀2年(1571)、欽徳が尾張町に創立。本尊は、聖徳太子御自作と伝えられる高さ三尺の阿弥陀如来像である。寺宝には、聖徳太子画像一幅、七高僧画像一幅、蓮如上人画像一幅、観鷺聖人御絵伝四幅などを有する。



藤嶋山 真宗大谷派 円長寺 34 H3
拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

由来によれば三代利常が卯辰山周辺に鷹狩りを行った際、小休憩所として利用したと伝えられる。その縁により利常の位牌を守り現在も安置。剣梅鉢の袈裟使用などが許されている。六角造りの一切経蔵には一切経が大切に保管されている。



黎明山 真宗大谷派 **實相寺** 35 G3
拝観 境内のみ 可

安永3年(1774)、真宗東派願楽寺第五世智清の三男・覚円が独立し、後に本願寺より寺号が許可。さらに明治13年(1880)、菊田霊明が彦三町に創設した際に寺号公称が許可された。三味線の祖である越中屋与兵衛の墓がある。



常護山 真宗大谷派 **即願寺** 36 F3
拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

開山である念西は信州高森の郷士・高森壱岐守秀知と称し、越中国新川郡黒崎村に住んでいたが、のちに金沢に移り、万治4年(1661)現在地に移った。寺宝には、聖徳太子木像、蓮如上人御筆二軸、親鸞筆月影歌一軸などを有する。



毘沙門山 天台真盛宗 **来教寺** 37 F5
拝観 境内のみ 可

本堂内陣は珍しく神社様式をとっており、左側内陣は金毘羅大権現が中心、右側内陣は阿弥陀仏が祀っており、馬頭観音不動明王毘沙門天が配されている。金沢出身の蓮田修吾郎氏寄贈の作品である多宝塔が安置されている。



金澤山 真言宗 **永久寺** 38 F5
拝観 境内のみ 可

金沢西国三十三観音第二十二札所。天文8年(1539)白山市鶴来町に送検されていた「一王寺」が前身。文禄2年(1593)利家の命により「金洗沢」の近くに移る。「金澤寺」となり、寛永4年(1627)現在地に移転。後に永久寺と改称される。本尊千手千眼観世音菩薩は玉泉院(二大藩主利長正室)より寄進される。



孤峯山 浄土宗 **玄門寺** 39 F4
拝観 境内・建物内各々 要予約 問い合わせ252-6761

加賀藩士・内藤善斎が三代利常より寺地を拝領したことが起こり。順生が発願したという一丈六尺の大仏、寄木立像阿弥陀仏が安置され、寺宝には僧心岩筆の法然上人像、一枚起請文などもある。火除神として秋葉大権現を祀る。



妙法山 日蓮宗 **円光寺** 40 E5
拝観 境内のみ 可

二代利長が守山在城時代に寺地を賜ったことが起こり。富山、高岡と利長に従って移り、寛永13年(1636)現在地に移った。利長が高岡在城の頃に守本尊として信仰した観世音菩薩像が安置されている。宗祖御会式、観世音祭礼を勤修。



金澤山 日蓮宗 **妙応寺** 41 E4
拝観 境内 可 建物内参拝の方

慶長4年(1599)金沢城外に総構堀を造るため用地召上げとなり、犀川中河原町など数度移転し、現在地に移った。寺宝には、日蓮大菩薩像、法華経八巻を納めた宝塔など。元禄の茶人・慧応院日感、儒臣・西坂成庵などの墓がある。



妙光山 日蓮宗 **長久寺** 42 E5
拝観 境内のみ 可

玉泉院(二代藩主前田利長正室)の祈祷所でもあった。玉泉院逝去後は三代利常の側室妙雲院(古和)の菩提所となる。妙雲院は加賀八家本多政長に嫁いだ春姫の生母である。政治結社忠告社を起こした杉村寛正の墓がある。



妙法山 日蓮宗 **蓮華寺** 43 E5
拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

干支の丑歳寅歳の人を守護してくれる虚空蔵菩薩が泰安されている。右手に利剣(智恵)、左手に宝珠(福德)を持つ。江戸初期の作で本山の妙成寺より伝来。数え年十三歳の十三参り信仰があり、縁日は十三日。



卯辰山三社 44 K9
拝観 境内のみ 可

卯辰山三社とは愛宕神社、卯辰山天満宮、豊国神社の三社をいう。卯辰山天満宮は十四代慶寧が兼六園内の竹沢御殿の天満宮を移した。豊国神社は明治の神仏分離令の際、秀吉を主神とし卯辰観音から豊国神社と改称。後に愛宕社を合祀した。



立向山 日蓮宗 **善妙寺** 45 K10
拝観 境内のみ 可 建物内 要許可

慶応4年(1868)、十三代藩主斉泰が卯辰山開発の折に庚申塚の土中より出現した日月天子像を日教上人に託し祭祀したのが起源。
明治12年(1879)に東京の善妙院を当地に移し立向山善妙寺と改号。文豪、泉鏡花ゆかりの摩耶夫人尊天像を安置。



臥龍山 浄土真宗本願寺派 **覚林寺** 46 J10
拝観 境内のみ 可

文明3年(1471)蓮如上人が北陸巡化の際、八代慧燈大師が上人から六字の名号直筆と自作の木造を授けられた。上人の信徒覚林が一宇を五宝町(笠市町)に建立。明治期に現在地に移転し、以後、向山の蓮如さんと親しまれる。



東山蓮如堂

47
I6

拝観 境内のみ 可

東山蓮如堂は、昭和7年(1932)以降に建てられ、現在真宗大谷派金沢別院(金沢市安江町15番52号)が管理している。毎年4月25日には蓮如忌、10月25日には報恩講が行われている。大正末期から7年の歳月をかけ建立された蓮如像(右手に杖、左手に念珠を持った61歳のお姿)は、令和6年能登半島地震により倒壊し、現在は御堂のみ残っている。



御嶽山 東山御嶽神社

48
H6

拝観 境内・建物内 可

大正7年(1918)、霊峰木曾御嶽山の御神体を御嶽大神として奉る。同時に不動明王を信仰し、山岳修業に身を投じ、滝行により一願不動尊の信仰に灯を点し続けている。不動尊は木像の立像で、一丈六尺の巨大明王である。



北光山 曹洞宗 伝燈院

49
H6

拝観 境内のみ 可

塔頭として羽咋市永光寺の西北の地に、五老峯「伝燈院」の名を付したことが起こり。老朽化に伴い正保4年(1647)久外吞良禅師が金沢塩屋町に復興。寛文11年(1671)現在地に移る。以後二度の火災で焼失したが再建した。



寶珠山 真宗大谷派 持名寺

50
H7

拝観 境内のみ 可

合掌造りの真宗道場として、蓮如上人由縁の旧蹟として知られる。文明7年(1475)5月、上人北国巡錫の折、二俣から卯辰山麓の八兵衛の家を足がかりとして教化された。そのため上人の「川越の名号」や書幅が寺宝として伝わる。



宇多須神社奥宮

51
G9

拝観 境内のみ 可

延享3年(1746)年卯辰八幡宮(現在の宇多須神社)の境内地横に遷座。弁財天・大黒天を配し、疫神消除の神「毘沙門さん」と親しまれている。御遷座の証しに六月の『お上がり』神事、九月の『お下がり』神事が現在も連綿と続く。



九万坊寺

52
E8

拝観 境内・建物内 不可

奈良にある金峯山寺を祖とし建立された当寺は山林の急斜面の山腹にある。九万坊大権現霊像が祀られている。坊の中には仏像經典の焼却の碑があり、悩む女性の信者が多く参詣した。



横根山 真宗大谷派 乗光寺

53
B7

拝観 境内 可 建物内住職在宅時 可

岩根馬場に建立した当時は「旅屋」と称した。天明3年(1783)現在地に移り、現在の寺号を称する。本尊は、安阿弥の手によるといわれる一尺二寸の阿弥陀仏である。寺宝には、宗祖大師真影一幅、琢如法主画像一幅などがある。



幽谷山 真宗大谷派 浄教寺

54
A8

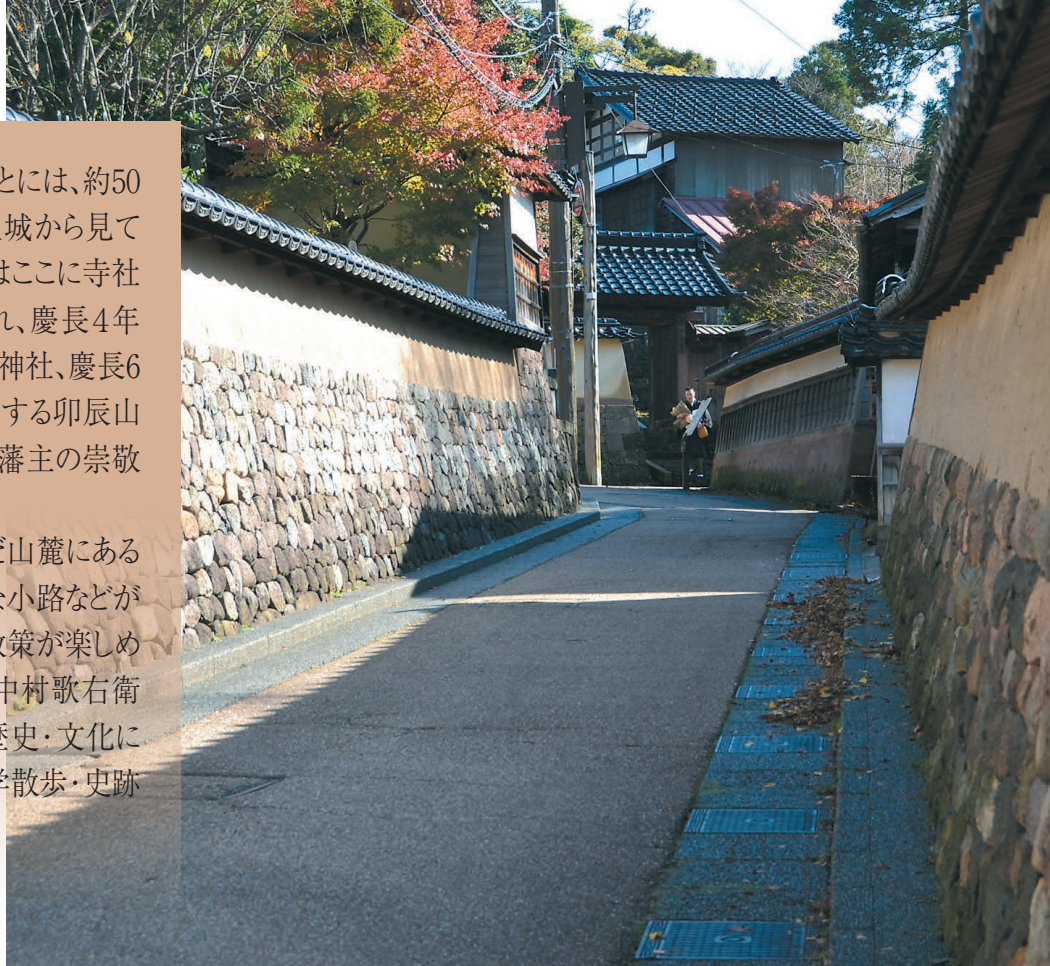
拝観 境内のみ 可

明治2年(1869)12月に寺号の公称が許された。境内は約500坪で、本堂・庫裡・山門などがある。毎年、春には蓮如忌があり、秋には報恩講がある。また、加賀友禅作家の談議所栄二の墓などがある。



浅野川に隣接する卯辰山のふもとには、約50の寺社が散在する。卯辰山は金沢城から見て鬼門(北東)に当たるため、加賀藩はここに寺社を集めて厄除けを行ったとも言われ、慶長4年(1599)には前田利家を祀る宇多須神社、慶長6年(1601)には豊臣秀吉を主祭神とする卯辰山王社(後の豊国神社)を建立、歴代藩主の崇敬社とした。

卯辰山山麓寺院群は入り組んだ山麓にあるため、坂道や長い階段、迷路のような小路などが続き、四季おりおりに変化に富んだ散策が楽しめる。また、芭蕉の句碑をはじめ初代中村歌右衛門の碑や宮崎友禅斎など金沢の歴史・文化に足跡を残した人物の墓碑も多く、文学散歩・史跡巡りにも絶好の地となっている。



↑ 全性寺周辺の土塀／表紙写真は西養寺の鐘楼



歩く、観る、祈る。

金沢三寺院群の旅

金沢三寺院群とは

元和2年(1616)ころ、加賀藩三代藩主・前田利常は金沢城の防備や寺社の管理、人別(現在の戸籍)を行うため、さらには一向宗対策として、城下に散在していた寺社を3か所に移転・配置した。城の南東にある「小立野寺院群」、北東の「卯辰山山麓寺院群」、南西の「寺町寺院群」。それぞれに趣きのある3つの“寺のまち”を歩けば、知らなかった金沢が見えてくる。まずは一番訪ねてみたい寺院を決めて、その近隣を巡ってみてはどうだろう。



発行

金沢市観光政策課

金沢市広坂 1-1-1 ☎076-220-2194 FAX 076-260-7191
<https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp>



金沢旅物語

検索

※各寺社の御朱印・御朱印帳の有無は HP よりご確認ください。
御朱印はすぐに対応できない場合がございますので、あらかじめ各寺社にお問い合わせいただくことをおすすめします。

※このパンフレットに掲載の内容は、令和6年時点のものです。